

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3200732号
(U3200732)

(45) 発行日 平成27年11月5日 (2015. 11. 5)

(24) 登録日 平成27年10月14日 (2015. 10. 14)

(51) Int. Cl.

F 1

A 4 7 J 31/06 (2006. 01)

A 4 7 J 31/02 (2006. 01)

A 4 7 J 31/06 A

A 4 7 J 31/02

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号	実願2015-867 (U2015-867)	(73) 実用新案権者	598106485
(22) 出願日	平成27年2月6日 (2015. 2. 6)		有限会社 福富ヘルスサイエンスアンドサービス
			岐阜県岐阜市安食1228番地
		(74) 代理人	100103023
			弁理士 萬田 正行
		(72) 考案者	福富 悌
			岐阜県岐阜市安食1228番地 有限会社
			福富ヘルスサイエンスアンドサービス内

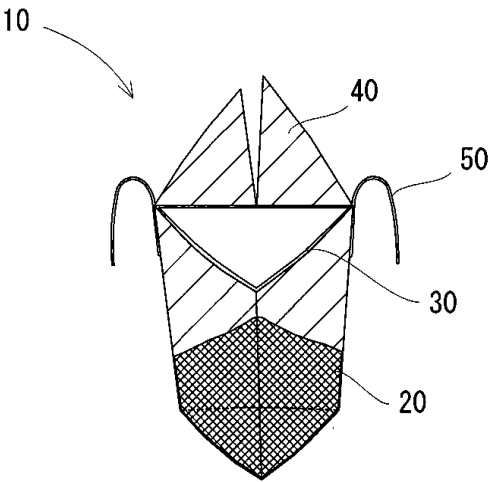
(54) 【考案の名称】 ドリップパック

(57) 【要約】

【課題】安定的に湯呑やコーヒーカップに取り付けることができ、抽出時にコーヒー粉等が外に飛び散ることが無く、しかも、抽出後、湯呑やコーヒーカップの開口部に取り付けたままでお茶やコーヒーを飲むことができるドリップパックを提供すること。

【解決手段】湯呑やコーヒーカップの開口縁に取り付けるドリップパック10であって、不織布を材料とする略三角柱形状のフィルター20と、フィルター20の開口縁であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接しない部分に設置された形状維持部材30と、フィルター20の開口縁であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接した部分を開閉軸として開閉自在な蓋部40と、フィルター20の開口縁の端部であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接した二箇所に設置した固定部材50とからなるドリップパック10とした。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

湯呑やコーヒーカップの開口縁に取り付けるドリップバックであって、
不織布を材料とする略三角柱形状のフィルターと、
前記フィルターの開口縁であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接しない部分に設置された形状維持部材と、
前記フィルターの開口縁であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接する部分を開閉軸として開閉自在な蓋部と、
前記フィルターの開口縁の端部であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接した二箇所
所に設置した固定部材とからなるドリップバック。

10

【請求項 2】

前記蓋部は、略中心線に沿って切り込みを入れることにより分離していることを特徴とする請求項 1 に記載のドリップバック。

【請求項 3】

前記蓋部は不織布を材料としており、さらに、前記フィルターの開口部よりも面積が大きい
ため、前記フィルターの開口部全面を覆ってしまうことを特徴とする請求項 1 に記載
のドリップバック。

【請求項 4】

前記形状維持部材、及び固定部材は一体化されており、さらに、コーヒーカップの取手
等に巻き付けることができる程度の十分な長さを有することを特徴とする請求項 1 乃至請
求項 3 のいずれかに記載のドリップバック。

20

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、湯呑やコーヒーカップ等の開口縁に取り付けてから、熱湯を注ぐことにより
コーヒーをドリップし、お茶や紅茶等を抽出するドリップバックに関する。さらに言えば
、安定的に湯呑やコーヒーカップ等に取り付けることができ、ドリップ時や抽出時にコー
ヒー粉等が外に飛び散ることが無く、しかも、抽出後、湯呑やコーヒーカップ等の開口縁
に取り付けたままで飲むことができるドリップバックに関する。

【背景技術】

30

【0002】

近年においては、コーヒーメーカーを使用することなく、予め一杯分の量のコーヒー粉（
レギュラーコーヒー）が、フィルター製の袋の中に入っており、袋を開け、コーヒーカッ
プの開口上部に設置してから、熱湯を注いでコーヒーを抽出する、または、コーヒーカッ
プ内に設置してから、熱湯を注いでコーヒーを抽出することで家庭でも簡単に本物志向の
美味しいコーヒーが飲める簡易ドリップバック（１杯抽出タイプ）が急速にコーヒー市場
を拡大している。一方、お茶や紅茶は葉っぱを乾燥させたものから熱湯を注いで抽出して
いた。

【0003】

ドリップバックをコーヒーカップの開口上部に設置する方式は、ドリップバックから抽
出したコーヒーを少しずつ落下させて（「ドリップさせて」）コーヒーカップ内に溜める
方式である。ドリップさせるためには、ドリップバックの位置をコーヒーカップ面よりも
、さらに高い位置に設置する必要がある、そもそも安定性が無く、それ故、ドリップバッ
クを安定的に設置するための複雑な構造により、取り付けに手間が掛かっていた。しかも
、熱湯を注ぐ位置は、コーヒーカップ面よりも高い位置になってしまうため、コーヒー抽
出時において、熱湯が注がれたドリップバックが安定性を失って、コーヒーカップから外
れてしまうことがあった。

40

【0004】

コーヒーカップから外れなかったとしても、抽出時に注いだ熱湯の勢い等により、フィ
ルター製の袋の開口した箇所からコーヒー粉が飛び出し、或いは、熱湯を注ぎ過ぎてしま

50

いドリッパックから溢れ、コーヒー粉ごと溢れ出てしまうこともあった（お茶や紅茶に置き換えても同様である）。一方、コーヒーカップ内に入れて使用する方式では、ドリッパックをコーヒーカップに取り付ける際の安定性は、取り付ける位置がドリッパック方式よりも低いため、比較的高いものの、フィルター製の袋を通して、ドリッパック内に注いだ熱湯が出入りするため、抽出に時間を要し、しかも、十分な抽出が得られないことがあった。さらに言えば、従来技術によるドリッパックにおいては、ドリッパックをコーヒーカップに設置したままコーヒーを飲むことができなかった。

【0005】

本考案に関連する技術として、特許文献1の如く、「防水耐熱性に優れ且つ真空パック又は完全密封に適した素材でできた外袋の中に、コーヒーのドリッパに適した通水性に優れた内袋を入れ、更に、その内袋の中にコーヒー粉を入れたうえで、外袋の横辺の上部に設けた凸部を内側に折り、内袋の横辺の上部に設けた凸部を被包し固着させ、外袋の開口部を真空パック又は完全密封して閉じる用にした容器。使用時には外袋の両側面に設けた引き手兼支持脚を利用し内袋も同時に開封可能とし更に前記支持脚を利用してコーヒーカップ等の上に前記容器を自立可能とした。また内袋に設けた切取線で外袋と内袋とを分離して捨てられるようした。（特許文献1：解決手段）。」が開示されていた。

10

【0006】

さらに、特許文献2の如く、「・・・下辺と折り目辺である下辺を下方に位置し上端角部を上位置して上辺側と上辺側の二辺を開放し全体が逆円すい形の袋部を形成するため上端部と側端部側には袋部の背面側と前面側のシート材料にミシン目をそれぞれ設けて、この上辺と上辺の二辺の側を開き一体の開放口を構成して逆円すい形の袋部としている支持体と支持体は中心軸と外周枠全体がシート材料の外壁面に貼着されており左右対称の2個の係止片は各、折り曲げ線から図4に示す様に外側から開きシート材料の外壁面から伸び出てカップの口部をとらえ係止片の先端側がカップの外側に位置させて使用すり以上からなることを特徴としたドリッパック（特許文献2：請求項1から抜粋）。」が開示されていた。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0007】

【特許文献1】 特開2006-122626号公報

30

【特許文献2】 特開2013-236886号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0008】

特許文献1に係る簡易コーヒードリッパー（特許文献1：発明の名称）は、ドリッパックから抽出したコーヒーを少しずつ落下させて（「ドリッパさせて」）コーヒーカップ内に溜める方式によるドリッパックである。特許文献1に係るドリッパックは、コーヒーカップの開口縁の上に自立可能な構成となっている。ただ単に、ドリッパックをコーヒーカップの開口縁の上に置いているだけであるので、設置状態が不安定であり、特に、屋外等の風が吹くような場所で使用することができない。そして、ドリッパックをコーヒーカップに設置したままコーヒーを飲むことができないという欠点があった。

40

【0009】

特許文献2に係るドリッパック（特許文献2：発明の名称）は、コーヒーカップ内に入れて使用する方式によるドリッパックである。ドリッパックをコーヒーカップに比較的安定して取り付けることができるが、フィルターの大部分がコーヒーカップ内に位置しているため、フィルターを通して、ドリッパック内に注いだ熱湯が出たり入ったりするため抽出に時間を要し、しかも、十分な抽出が得られないことがあった。そして、特許文献1と同様に、ドリッパックをコーヒーカップに設置したままコーヒーを飲むことができないという欠点があった。

【0010】

50

本考案の目的は、安定的に湯呑やコーヒーカップに取り付けることができ、抽出時にコーヒー粉等が外に飛び散ることが無く、しかも、抽出後、湯呑やコーヒーカップの開口縁に取り付けたままでお茶やコーヒーを飲むことができるドリップバックを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0011】

請求項1に記載した考案は、湯呑やコーヒーカップの開口縁に取り付けるドリップバックであって、不織布を材料とする略三角柱形状のフィルターと、前記フィルターの開口縁であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接しない部分に設置された形状維持部材と、前記フィルターの開口縁であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接する部分を開閉軸として開閉自在な蓋部と、前記フィルターの開口縁の端部であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接した二箇所に設置した固定部材とからなるドリップバックであることを特徴とするものである。

10

【0012】

請求項2に記載した考案は、請求項1に記載した考案において、前記蓋部は、略中心線に沿って切り込みを入れることにより分離しているドリップバックであることを特徴とするものである。

【0013】

請求項3に記載した考案は、請求項1に記載した考案において、前記蓋部は不織布を材料としており、さらに、前記フィルターの開口部よりも面積が大きいため、前記フィルターの開口部全面を覆ってしまうドリップバックであることを特徴とするものである。

20

【0014】

請求項4に記載した考案は、請求項1乃至請求項3に記載したいずれかの考案において、前記形状維持部材、及び固定部材は一体化されており、さらに、コーヒーカップの取手等に巻き付けることができる程度の十分な長さを有するドリップバックであることを特徴とするものである。

【考案の効果】

【0015】

本考案によれば、フィルターの開口縁の端部であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接した二箇所に設置した固定部材により、ドリップバックを湯呑やコーヒーカップに安定的に取り付けることができるため、湯呑やコーヒーカップにドリップバックを取り付けたままコーヒーを飲むことができるドリップバックを提供することができるようになった。さらに、形状維持部材、及び固定部材は一体化することも可能であり、コーヒーカップの取手等に巻き付けることができる程度の十分な長さを有することができるため、コーヒーカップの取手等に巻き付けることにより、取り付け時、抽出時におけるさらなる安定化を図ることができる。

30

【0016】

そして、フィルターの開口縁であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接した部分を開閉軸として開閉自在で、かつ、略中心線に沿って切り込みを入れることにより分離している蓋部により、蓋部を閉じた状態で、蓋部の湯呑やコーヒーカップの開口縁に接しない部分の先端付近に熱湯を注ぐことができる程度の隙間が生じさせつつ、抽出時にコーヒー粉等が外に飛び散ることが無くなった。蓋部の素材をフィルターと同じ素材にすることで、蓋をしたままで、コーヒー等を抽出するために、熱湯を注ぐこともできるようになった。しかも、フィルターの開口縁であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接しない部分に設置された形状維持部材により、抽出する際、フィルター開口部が変形することが無く、安定的に熱湯を注ぐことができるようになった。

40

【0017】

さらに、ドリップバックを湯呑やコーヒーカップ内に入れて使用する方式では、フィルターを通してパック内にお湯が出入するため抽出に時間を要しており、しかも、十分な抽出が得られないため、風味等に欠点があったが、本考案に係るドリップバックは、フィル

50

ターの開口縁の端部であって、湯呑やコーヒーカップの開口縁に接した二箇所に設置した固定部材により、ドリッパックを高い位置に固定され熱湯に浸かってしまう容積を最小限にすることができるので、抽出したコーヒー等が、フィルターを出入りすることなく十分な抽出ができるようになった。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】 ドリッパックの全体図である。

【図2】 ドリッパックの使用状態を表す図である。

【考案を実施するための形態】

【0019】

10

<ドリッパックの構造>

以下、本考案に係るドリッパック10の実施例（主として、コーヒーについて説明する）について、図1～図2を参照しつつ詳細に説明する。図1は、本考案に係るドリッパック10の全体図である。

【0020】

本考案に係るドリッパック10は、わざわざ、コーヒーマーカ等を使用することなく、気軽にコーヒーを抽出するために、コーヒーカップの開口縁に設置することができるように設計されたドリッパックである。図1に記載したように、コーヒーを抽出するために不可欠な不織布を材料とする略三角柱形状をした、コーヒー注ぐための開口、及び底を有するフィルター20と、フィルター20の開口縁であって、抽出時において、コーヒーカップの開口縁に接しない部分に設置された形状維持部材30と、フィルター20の開口縁であって、コーヒーカップの開口縁に接した部分を開閉軸として開閉自在で、略中心線に沿って切り込みを入れることにより分離している蓋部40と、フィルター20の開口縁の端部であって、コーヒーカップの開口縁に接した二箇所に設置した固定部材50とから構成されている。

20

【0021】

フィルター20の素材は、いわゆる不織布であり、繊維を一定方向やランダムに集積して接着樹脂で化学的に結合させたり、機械的に絡ませたり、圧力をかけた水流で絡ませたり、熱融着繊維で結合させて製造する。不織布製フィルターは、コーヒー粉を、熱湯を注いで濾過することによりコーヒーを抽出するものであり、コーヒー抽出時に破れない程度の強度を有している。また、形状維持部材30、及び固定部材50の素材は、直径0.5mm～1.5mm程度の針金であり、表面にビニールや、樹脂フィルム等を巻くことにより被覆している。

30

【0022】

<ドリッパックの使用手法>

図2は、ドリッパックの使用状態を表す図である。図2に記載したように、本考案に係るドリッパック10を、コーヒーカップに取り付ける際は、固定部材50を略コの字形に曲げて、コーヒーカップの開口縁に取り付ける。固定部材50が、コーヒーカップの取手等に巻き付けることができる程度の十分な長さを有している場合は、コーヒーカップの取手に巻き付けることで、さらに、安定的に固定することもできる。コーヒーを抽出する際は、不織布を材料とする略三角柱形状をした、コーヒー注ぐための開口、及び底を有するフィルター20に熱湯を注ぎ込む。この際、略中心線に沿って切り込みを入れることにより分離している蓋部は、コーヒーカップの開口縁の曲線部分に合わせてから、図2の矢印の方向に閉じるようにして蓋をすると、蓋部を閉じた状態で、蓋部のコーヒーカップの開口縁に接しない部分の先端付近に熱湯を注ぐことができる程度の間隙が生じている。

40

【0023】

<ドリッパックの効果>

本考案によれば、フィルター20の開口縁の端部であって、コーヒーカップの開口縁に接した二箇所に設置した固定部材50を略コの字形に曲げてコーヒーカップに取り付ける。かかる構成であれば、ドリッパックをコーヒーカップに安定的に取り付けることがで

50

きる。かかる構成であれば、ドリッパックは、かなり安定してコーヒーカップに取り付けられているため、コーヒーカップにドリッパックを取り付けたままコーヒーを飲むことができる。

【0024】

さらに、コーヒーカップの開口縁に接しない部分に設置された形状維持部材30、及び固定部材50は一体化することも可能であり、形状維持部材30と固定部材50（針金の表面に樹脂フィルム等を巻いたもので構成される。）をコーヒーカップの取手等に巻き付けることができる程度の十分な長さを有することもできるため、コーヒーカップの取手等に巻き付けることにより、コーヒー抽出時におけるさらなる安定化を図ることができる。即ち、コーヒーカップにドリッパック10を取り付けたまま、ドリッパック10が外れることを全く気にせずにコーヒーを飲むことができる。

10

【0025】

そして、フィルター20の開口縁であって、コーヒーカップの開口縁に接した部分を開閉軸として開閉自在で、略中心線に沿って切り込みを入れることにより分離している蓋部40を設置することにより、蓋部のコーヒーカップの開口縁に接しない部分の先端付近に熱湯を注ぐことができる程度の隙間が生じつつも、コーヒー抽出時にコーヒー粉が外に飛び散ることが無くなった。蓋部40の素材をフィルターと同じ素材にすることで、少量ずつであれば、蓋をした状態で隙間の無い部分であっても、コーヒーを抽出するために、熱湯を注ぐこともできるようになった。しかも、フィルター20の開口縁であって、コーヒーカップの開口縁に接しない部分に設置された形状維持部材30により、コーヒー抽出する際、フィルター20開口部が熱や湿気により変形することが無く、安定的に熱湯を注ぐことができるようになった。

20

【0026】

さらに、ドリッパックをコーヒーカップ内に入れて使用する方式では、フィルター20を通してドリッパック内にお湯が出入するため抽出に時間を要しており、十分な抽出効果が得られないため、風味等に欠点があったが、本考案に係るドリッパック10は、フィルター20の開口縁の端部であって、コーヒーカップの開口縁に接した二箇所に設置した固定部材50により、高い位置に固定され、抽出時において、抽出されたコーヒーに浸かってしまう容積を最小限にすることができるので、抽出したコーヒーが、殆どフィルター20を出入りすることなく十分な抽出ができるようになった。

30

【0027】

<ドリッパックの変更例>

本考案に係るドリッパック10の構成は、上記実施形態の態様に何ら限定されるものではなく、フィルター20、形状固定部材30、蓋部40、固定部材50等の構成を、本考案の趣旨を逸脱しない範囲で、必要に応じて適宜変更することができる。

【産業上の利用可能性】

【0028】

本考案に係るドリッパックは、上記の如く優れた効果を奏するものであるもので、湯呑やコーヒーカップの開口縁に取り付けてから、熱湯を注ぐことによりお茶やコーヒー等を抽出するドリッパックに関する分野において好適に用いることができる。

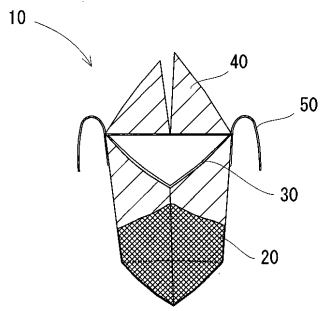
40

【符号の説明】

【0029】

- 10・・・ドリッパック
- 20・・・フィルター
- 30・・・形状維持部材
- 40・・・蓋部
- 50・・・固定部材

【 図 1 】



【 図 2 】

